

「ポスト・グラフィックデザイン時代の思索と実践」

デザイン学科 梶藤隆弘 Takahiro ETO



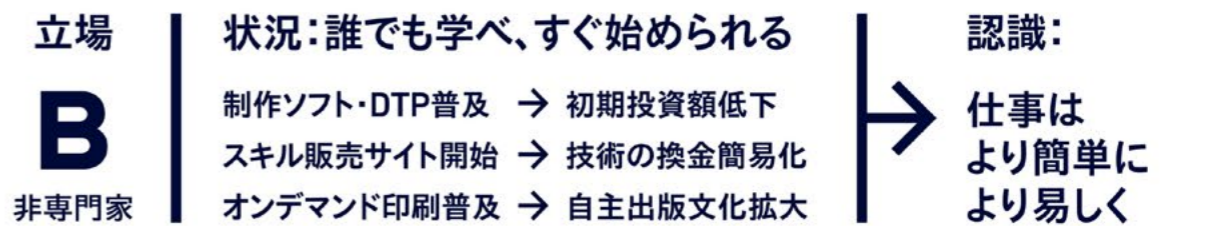
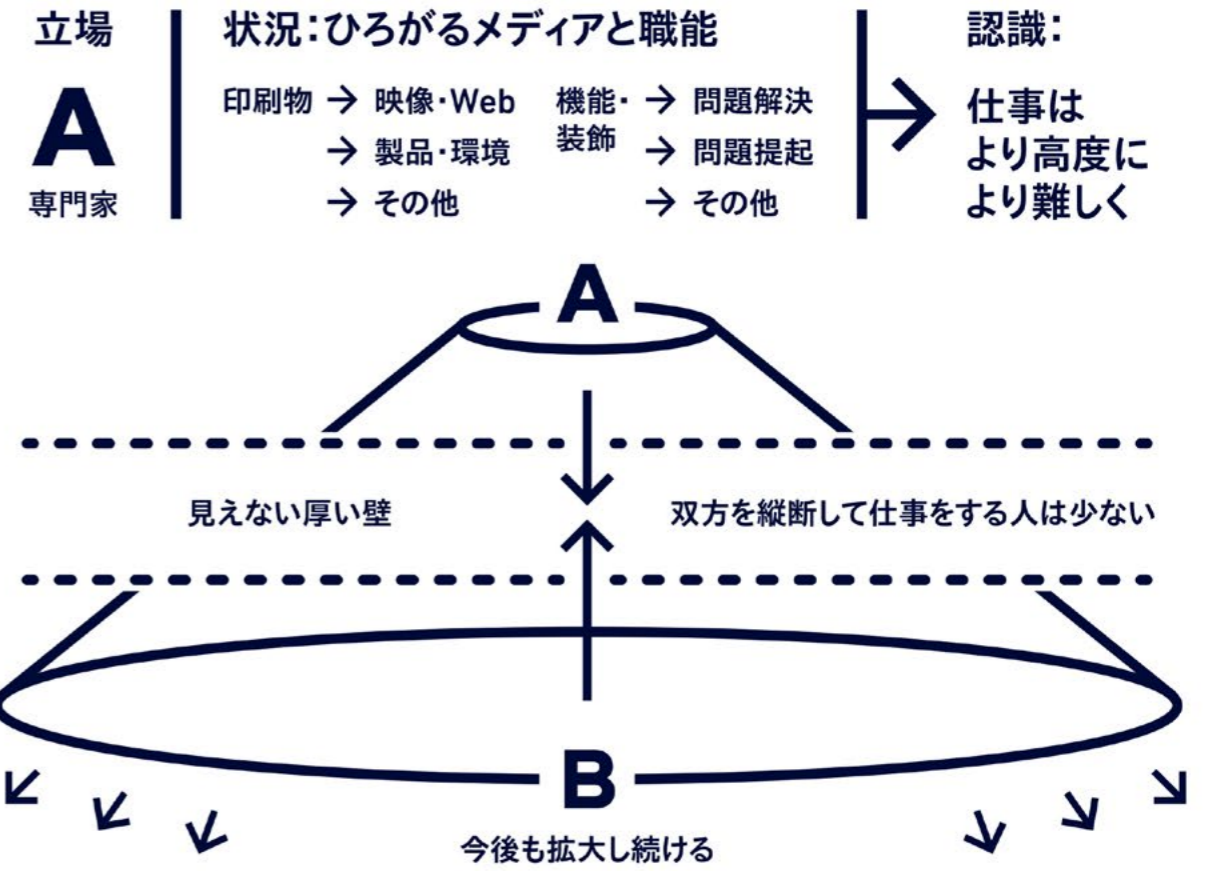
グラフィックデザインにしか逃げ場がないからやっている。そこに拘らなくても生きていけるのならばとっくにそうしている。グラフィックデザインは変わらなくてはならない、職域は拡張されなければならない、領域は超えなければならない、社会へと開かれなければならない、こういった声は、出所は違えどすべて同じ方向を向いている。そのことに少し背筋が寒くなる。ここまでグラフィックデザインが一般化した時代には、専門用語による外向けの宣伝文句よりも、日常的な言葉遣いによる内向きな理論が必要だ。そのためには己のやり方に意識的にならざるを得ない。私はまず仕事をする、そして言葉にする。無意識下の創造を言葉で意識化するが、どうしても言葉は作品の実態とズレる。言葉が作品より純度が高くなってしまっていて、もどかしい。もっとできるはずだ。だからまた作る。これを繰り返すだけである。



グラフィックデザイナー / 1981年静岡県生まれ。2010年多摩美術大学大学院博士後期課程修了。博士(芸術)。2016年STUDY LLC.設立。グラフィックデザイン固有の表現を、多様な領域へと展開することを実践している。主な受賞に、世界ポスタートリエナーレトヤマ2009銅賞、第22回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ Honorary Mention、日本タイポグラフィ年鑑2019ベストワーク賞など。2018年より東京工芸大学デザイン学科助教。JAGDA 会員。

現状

グラフィックデザインが広く一般化した現代＝
ポスト・グラフィックデザイン時代における
2つの立場と、それらを隔てる見えない壁の発生



問題

A・Bは、仕事の規模や影響力・技能など全ての面において大きく異なるが、B層が巨大化することで、グラフィックデザインに従事しない一般層の認識や理解も、B層のそれに近づく。結果、専門性軽視や職能への誤解が広まり、適切な成果物の実現を阻む恐れがある。

実践

A・B双方を縦断する多様な仕事を実践することで、グラフィックデザインやグラフィックデザイナーに対する画一的な先入観を局所的にでも更新する。

“Contemplating and Practicing the Post Graphic Design Era”

Department of Design Takahiro ETO



I engage in graphic design because it is my only refuge, but if I were able to live differently, I already would be. Voices claim that graphic design must change, expand, overcome its borders, and open up to society. Despite having different origins, all of these declarations point in the same direction. I find this somewhat chilling. In the current era, when graphic design has become an everyday object, theories that are aimed internally and use colloquial language are more necessary than advertisements that are aimed at the outside world and utilize specialist language. Therefore, I must be cognizant of my personal working method, that is, doing the work before verbally expressing what the work is. It is possible to bring things that were created unconsciously to a level of consciousness by using words, but somehow, the words never fit the reality of the work itself. Frustratingly, words tend to be purer than the actual works. Since more should be possible, the work is re-made. My method of working is merely a repetition of this process.

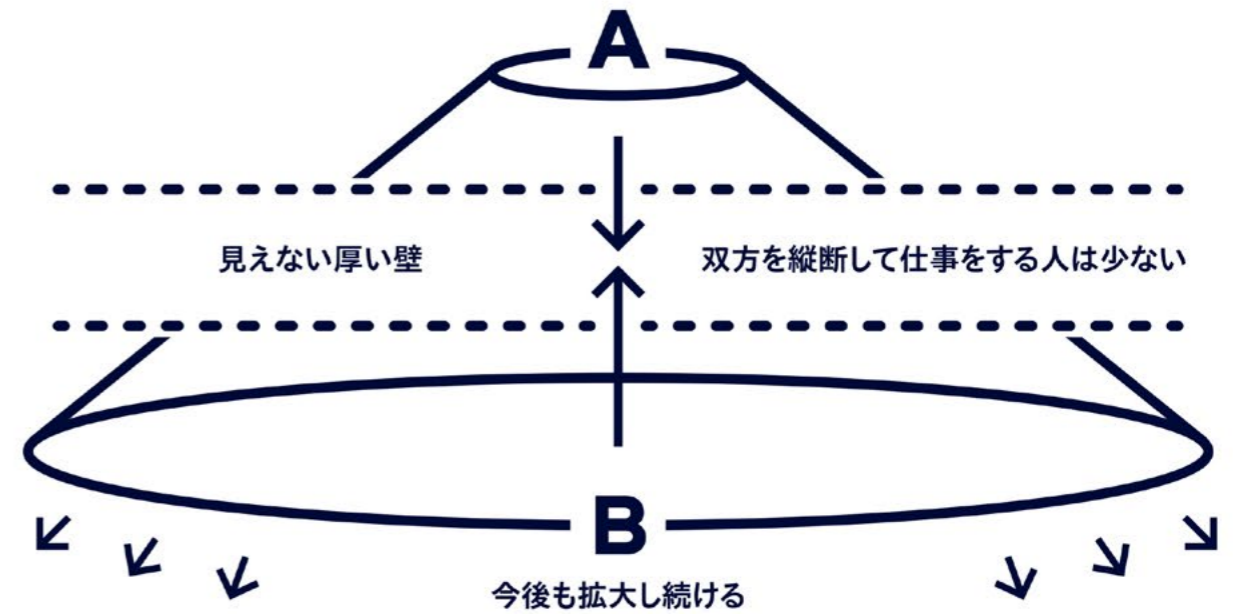


graphic designer / Born in Shizuoka in 1981. Graduated from Doctoral Degree Course, Graduate School of Tama Art University (Ph.D.) in 2010. Since 2016, own studio in Tokyo.

He is experimenting to develop graphic design specific expressions in various fields. Awards he received include: The 9th International Poster Triennial in Toyama 2009 Bronze Prize, 22nd International Poster Biennale in Warsaw Honorary Mention, JAPAN TYPOGRAPHY ASSOCIATION 2019 Bestwork Prize, and more. Assistant professor at Tokyo Polytechnic University since 2018. Member of JAGDA.

現状 グラフィックデザインが広く一般化した現代＝ポスト・グラフィックデザイン時代における2つの立場と、それらを隔てる見えない壁の発生

立場 A 専門家	状況:ひろがるメディアと職能	認識: 仕事はより高度により難しく	
	印刷物 → 映像・Web → 製品・環境 → その他		機能・装飾 → 問題解決 → 問題提起 → その他



立場 B 非専門家	状況:誰でも学べ、すぐ始められる	認識: 仕事はより簡単により易しく	
	制作ソフト・DTP普及 → 初期投資額低下 スキル販売サイト開始 → 技術の換金簡易化 オンデマンド印刷普及 → 自主出版文化拡大		

問題 A・Bは、仕事の規模や影響力・技能など全ての面において大きく異なるが、B層が巨大化することで、グラフィックデザインに従事しない一般層の認識や理解も、B層のそれに近づく。結果、専門性軽視や職能への誤解が広まり、適切な成果物の実現を阻む恐れがある。

実践 A・B双方を縦断する多様な仕事を実践することで、グラフィックデザインやグラフィックデザイナーに対する画一的な先入観を局所的にでも更新する。